

にぎわい

—日本海にぎわい・交流海道推進協議会通信—

会員紹介

～長崎県松浦市～

松浦市は、長崎県の最北部に位置し、魏志倭人伝にみられる九州西北部一帯の末羅国と12世紀から16世紀にかけて活躍した「松浦水軍・松浦党」に地名が由来し、悠久の昔から、大陸文化交流のなごりを各地にとどめています。そして、風光明媚で波静かな伊万里湾と緑豊かな自然に囲まれた、人口2万3千人の人情に溢れたまちです。

また、石炭専焼としては東洋一の270万kwを誇る松浦火力発電所や、年間水揚げ12万トンの公設松浦魚市場などがあり、活気に満ちた産業都市でもあります。特に、松浦魚市場はアジの水揚げが10年連続日本一となるなど、アジ、サバといった青物を主体として、西日本有数の産地市場であります。

さらに、市内には3ヶ所に点在する海水浴場やキャンプ場があり、森林浴やマリリゾートを気軽に楽しむことが出来、離島の青島、飛島をはじめ市内のいたるところで釣りが楽しめます。

この松浦市にとって、1年のうちに2回、市内外から約3万人近い人が訪れ、ととにぎわいを見せる「まつり」があります。その1つが、冒頭にも述べたように、古くから歴史舞台に登場し、大陸との交流海道を築き上げた「松浦党」に因んだ「松浦倭寇まつり」です。「松浦党」が活躍していた頃の船を再現した「山車」を使った中国との交流絵巻の再現、綱引き大会、ステージショー、市民総踊り、武者行列、倭寇なべの無料配布、物産展示即売会等、2日間に亘り繰り広げられます。

もう1つは、公設魚市場を開場とした「松浦おさかなまつり」です。水産業と市場流通の役割について、広く一般消費者に理解を深めてもらうため、魚市場を開放し、鮮魚、加工水産物の展示即売、調理実演等を通じて、魚食普及と消費拡大に努めることを目的に開催されています。

このまつりは、たいへんな盛況ぶりで、さかなのつかみ取り、マグロの解体即売、キャラクターショー等、企画も盛りだくさんと、訪れる皆様にとっても好評です。

昨年のお祭り会場には、下関市にある水産大学校より最新装備の練習船「天鷹丸」(全長62.6m、総トン数 716 t) が寄港、一般公開され、1千人を超える見学者が訪れ、水産業への関心を深めていました。

今後も、より内容を充実させ、市民の皆さん、そして近隣都市の皆さんに楽しんでいただける「まつり」を継続、充実させ、この伊万里湾一帯のにぎわい交流の場を創出していきたいと考えております。

【松浦市役所水産課】



「松浦倭寇まつり」日本船と中国船の交流図(山車)



「松浦おさかなまつり」さかなのつかみ取り会場



「松浦おさかなまつり」鮮魚等即売会場



「松浦おさかなまつり」下関水産大学校「天鷹丸」寄港

～長崎県郷ノ浦町（舌岐島）～

長崎県舌岐の島は九州北部と韓国との間にある玄界灘に浮かぶ離島であります。舌岐は中国の「魏志倭人伝」に登場し、舌岐ではなく一支国と呼ばれており南北との交易によって人々は暮らしているとされております。

郷ノ浦町は中世には主要港をもつ城下町として栄え、近世には政治のかなめの地として発展してきました。また郷ノ浦町では「春一番」の語源発祥の地として昭和61年度に「春一番の塔」を建設以来「船グロ」復活と一連のイベントを実施しております。「春一番」発祥の根源は安政6年旧暦2月13日当港の漁民達53名の遭難事故からはじまります。漁民達は早春に吹く暴風を恐れ「春一」と呼び、この風が吹き通らぬうちは、落ち着いて沖に出られなかったと伝えられております。この「春一番」は、気象用語や歌謡曲など全国的に定着し、その語源発祥の地として舌岐をピーアールしているところでもあります。



春一番イベント
“風のフェスタ” 10周年記念誌



メインイベント和舟競漕
舟グロ状況
↓
イベント開催状況



【郷ノ浦町役場建設課】



編集後記

今回は1月号ということで北海道から西九州方面まで、各地方で特色のある正月行事が行われたことと思います。筆者は九州も南端の出身であるため、温暖な気候の中で新年を迎えることが多いのですが当会員の中には、南北に伸びた日本海ということもあり、雪降る中での正月を迎えることが普通の会員も多く居られると思います。この気候的にも風土的にも多様な日本海を紹介することで相互の情報交換の場として参考になっている部分があるという声もたくさん聞かれます。会員の皆様、より地域色豊かな「にぎわい」誌面として活用していただきたいと思います。

日本海にぎわい・交流海道推進協議会事務局

第四港湾建設局 海域整備課 TEL0832-24-4129
Fax0832-32-4310